

会社紹介

株式会社：矢代仁
京都府京都市中央区
室町通二条南入蛸薬師寺272-2
創業：享保5年
事業内容：呉服メーカー問屋
URL: <http://www.yashironi.co.jp>

第1回 このシステムは求めているものと違う…〔改革の決意〕

本コーナーでは、プロのITコーディネータ組織「ITC-METRO」が、中小企業経営者と出会い、改革を進めていく様子をレポートしていく。

今回、ITC-METRO にコンサルティングを依頼した矢代仁は、創業280年の伝統ある呉服メーカー問屋だ。



年代別に御召の色・柄を記録している台帳。明治時代の織を参考にするものもあるとか。同社の大きな財産だ。

上品な風情を醸し出す「御召」は、

京都はもちろん、着物を愛する人々の「程合いの良いおしゃれ着」として重宝されている織物だ。京都府京都市の矢代仁は、この御召を主力商品に据える享保5（1720）年創業の伝統ある呉服メーカー問屋である。

戦後、人々の服装は洋装化へと加速する。同社もその流れを受け一時は多角化を図り、洋装品も取り扱った。しかし、「私どもの強みはやはり呉服。2000年ころからは再び御召と染物の和装品に事業を集中するようにしました」と矢代仁の矢代一社長は説明する。最近になって、「和」が見直されていることも追い風になっているという。

スリム化の先の

経営改革をどうするか

呉服業界は債権回収までの期間が長く、また在庫を豊富にキープして

おくなど

独特の商習慣があった。今の時代、こ

れでは経営を圧迫する。

矢代社長は経営のスリム化を進める一方でITの活用にも取り組んだ。

しかし、どうもすっきりしない。

岡本巧取締役は当時を振り返る。「オフコンのベンダーから何がしたいか聞かれ、皆で希望を言いました。しかし見積額を見てビックリ。仕方なく機能を減らしましたが、出来たものは求めたシステムと何か違う。冷たい物を頼んだはずが、暖かくて湯気が立っている物が出されたような…」

導入したオフコンは商品の一品管理が可能なシステムだったが、業務改革に結びつくものではなかった。適切なアドバイスをくれる立場の人もない。メーカーを変えても事態は同じだった。

相談相手との出会い

そして決意

困惑したままオフコン



取締役営業部長
の岡本巧氏

の保守契約が切れる時期を迎えた矢代社長は、顧問契約を結んでいるひかり税理士法人の間宮達二氏に相談を持ちかけた。税の専門家であるとともにITコーディネータとしての顔も持つ間宮氏は、同法人主催・NPO法人ITC-METRO運営の経営者研修会へ参加を勧める。

2005年7月に開催されたこの研修会は、「予想と違ってITの講義ではなく、自社の問題点を見つけ、参加者のアドバイスを受けるという有意義なものだった」。矢代社長はすでに研修の途中で、ITコーディネータ（ITC）の活用を決意したそうだ。一方、インストラクターを務めたITCの小形茂氏は「矢代社長の熱心さはひしひしと伝わってきた、是非経営改革のお手伝いをさせていた

だきたいと感じた」と言う。

こうして、両者の波長は合致。来年3月までのシステム発注を目指し、第一ステップである現状分析に着手した。

（次号に続く）



NPO法人 ITC-METROのメンバー
小形茂氏（写真右）、間宮達二氏（左）